２０１３年１２月　貝塚市立二色小学校　保健室

１２月になって、寒い日が続くようになってきました。７日は大雪、２２日は冬至で、こよみの文字にも冬らしさがあらわれていますね。かぜをひく人も増えています。手洗い・うがいをこまめにしたり、必要に応じてマスクをつけたりして、予防を心がけましょう。

## 「いじめについて考えよう」～保健委員会ビデオ放送～

１２月２日（月）・４日（水）の朝の会の時間に保健委員会で「いじめについて考えよう」のビデオ放送をしました。

委員会の時間に、ある日の教室の様子の絵を見て、『その中で悲しい気持ちをしている子はどの子か』『その子はどんな気持ちでいるか』『それを見た時自分は何ができるのか』を、保健委員会の子たちが一人ひとり考え、それをビデオにしました。

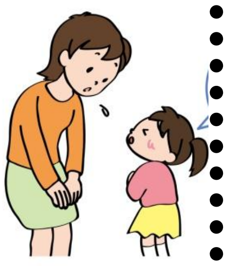
ビデオ放送では、パート１で、いじめとはどのようなことか、いじめられている人はどのような気持ちでいるのかを紹介し、**『いじめを見たときや、悲しい気持ちをしている友だちを見たとき、また、元気のない友だちがいるときに、何かできることはないでしょうか。みなさん一人ひとり何ができるか、一度、考えてみてください。』**とよびかけ、最後に「わたしのいもうと」という絵本を読みました。

パート２では、いじめを見た時や悲しい気持ちをしている友だちがいるとき、どんなことができるのかを紹介し、最後に「じぶん」という絵本を読みました。

**パート１より**

- ★知らん顔をする、悪口を言う、たたいたりけったりするのは、全部いじめです。
- ★言ったり、したりしている側は「遊び」や「ふざけ」、あるいは「おもしろ半分」のつもりでも、言われた側、された側がつらいおもいや、痛みを感じていれば、それは「いじめ」です。
- ★まわりで、いじめを見ているだけの人も、いじめているのと同じです。

**パート２より**



- ★一言でも声をかけることで、弱っている心がすくわれることがあります。「だいじょうぶ？」「おはよう」「バイバイ」など、声をかけるだけなら、だれでもできますね。
- ★勇気を出して、先生やお家の人など、話しやすい大人の人に相談することも大切です。
- ★よく「ちくった」と言いますが、それは悪いことではありません。「ちくった」からまた「いじめられる」ことのないよう、先生たちや大人の人と相談しましょう。

ビデオ放送を見ての感想を裏面にのせています。どの学年もいじめについて真剣に考えることができたようです。

## かぜをひいたときの３原則

**その１ 安静**

ムリをせず、すいみんを十分とるようにしよう。

**その２ 保温**

汗でしめった下着は冷えのもと！ こまめに取りかえよう。

**その３ 栄養**

消化のよい、あたたかいものをとろう。水分補給も忘れずに。

**【１１月の保健室】**

来室　３０３人（けが２５８人、体調不良４５人）

病院へ行ったけが　３件

去年の１１月に比べて、病院へ行ったけがは<u>６件少なくなっています。</u>

## あなたの思いやりを見える形に

電車でお年寄りや妊婦さんに「席をゆずろうかな」と思ったり、からだの不自由な人を見かけて「手助けしたほうがいいかな」と思っても、何となく行動に移せないことがありますね。

あなたの中には、そんなやさしい気持ちがたくさんあるのですから、ぜひ行動し、それを「見える形」にして、相手にも伝えてください。あなたのやさしい気持ちと行動は、困っている人だけでなく、それを見ている周りの人みんなをやさしく、あたたかい気持ちにするのです。

# 保健委員会ビデオ放送 「いじめについて考えよう パート１」を見て思ったこと

わたしは、いじめはいけないと思いました。それは、いじめられたらいやだし、こわいからです。そして、いじめている人は、あいての人や、友だちのきもちをかんがえてないと思います。もしかんがえていたら、いじめはしないと思います。（低学年）

ぼくはこのビデオを見てよかったと思いました。どうしてかというと、ぼくもわる口を言っていたけど、このビデオを見たから、今度からは気をつけようと思いました。（低学年）

わたしは、えで見たのやえほんで見たことはかわいそうと思いました。ちょっとしたわるふざけでも、そのちょっとが大きなじけんになっていって、ともだちが「もう学校にいきたくない。」や「もういきているのがいやだなぁ。」といって、あしたしんだら、いじめた子はどうにもできなくなるから、わたしはいじめられている子を見つけたら「やめてあげて。」とこえをかけたいです。そして、いじめられている子がちょっとでも気がさわやかになって、いきていてよかったと思ってもらうようにがんばろうと思いました。（低学年）

今日、ビデオを見て、わたしは「いじめ」はとてもいやだなぁと思います。なぜなら、されていた人は、学校に行きたくなくなり、もしかしたら自分で自分をころしてしまうこともあるからです。だから、わたしは人にいじわるとかをやっていないかなぁ？と思いました。（中学年）

わたしはこのビデオを見て、いじめをしている人はちょっとしたことと思っているかもしれないけど、されている人はすごくいやなんだと思いました。

あの本の最後、いじめで人の命がなくなるというのは本当にひどいなと思います。わたしもこれから、自分にできることはないか考えてみたいです。（中学年）

わたしはビデオを見て、コソコソ話だけでも相手がいやがっていたら、いじめになると言っていたので、今までやっていたから、今日からみんながいやがることをしないでおこうと思います。あと、いじめられている人を見ているだけでもいじめになることが分かったので、いじめを見つけたら一人では心細いので、何人かでいじめを止めようと思います。（中学年）

自分たちはたとえ遊びで「バカ」とか「アホ」と言っていても、言われた方は傷いて、それだけで『いじめ』になってしまうと、あらためて感じました。

『わたしのいもうと』という本では、わたしは「傷つけられるのは簡単だけど、その傷を元にもどすのには、とても時間がかかるのもなんだ。」と思いました。（高学年）

いじめている人を止めないで見ている人もいじめということが分かった。

「わたしのいもうと」という本の子どもがとてもかわいそうだった。

いじめをされた方の気持ちをみんなが分かっていれば、みんないじめをしないと思う。いじめをされた方の気持ちを知らないから、いじめを平気でやるんだと思う。（高学年）

保健委員会のビデオを見て、あらためて「いじめ」というものは遊び半分でやっていても、やられた方は絶対傷ついているということを実感させてくれました。絵本も読んでくれて、「ひとりぼっち」という言葉と「口をきいてくれない」という言葉が心に残りました。その言葉を聞いて、その子がかわいそうでたまりませんでした。（高学年）

ぼくもふざけて人をたたいたりしたことがあります。だから、そんなことをしないようにしていきたいです。

あと、最後の本は本当にさびしくて、かなしい本でした。だから、そんな子をこれからふやしたくないです。（高学年）

みんなの感想を読んで、「だれかがいじめていたら止めようと思う。」「自分も人をいじめていたから、やめようと思う。」というのがいっぱいあって、ちゃんとビデオ放送を見て、わたしたちが言いたいことを理解してくれてとてもうれしかった。

本当にいじめられていた子もいたけど、今は仲良しだと知って、一人でもいじめをやめてほしい、一人でも悲しい気持ちにならないようにしてあげたいと思った。（保健委員会）